

企画展  
Museum Collection Exhibition

# Adventures in Monochrome

# モノクロームの冒険

日本近世の  
水墨と白描

Early Modern Japanese  
Ink-Wash and  
Brush-Line Painting



2020年9月19日(土)～11月3日(火・祝) 根津美術館 NEZU MUSEUM

煤に膠で粘性を与えて作られる墨は、東洋において、文字を書く際の主たる材料であると同時に、書と密接に関わって展開した画(絵画)にとっても最重要の材料であり続けてきました。そうした墨で描かれる絵画は、濃淡や暈し、抑揚のある描線を駆使する水墨画と、均質な細い線を主とする白描画の大きく2つに分けることができます。本展は、墨の可能性をそれぞれ追求してきた水墨と白描の技法、ひいてはその表現の魅力を、日本近世の作例によってご覧いただくものです。

そもそも白描画は、着色画に対する言葉で、白い紙に黒い墨が映える、まさにモノクロームの美の世界です。一方、水墨画は、中国の唐時代に、現代のアクション・ペインティングさながら墨をはね散らして描く人々が登場したことで、墨の表現の多様性が再認識されたところに始まります。いずれも墨を基本としながら、部分的に色彩、あるいは金を加えて面白い効果をあげる作品も古来、少なくありません。日本には、白描画ははやく奈良時代に、また水墨画も平安時代末期以降、中世を通じて作品が数多くもたらされ、それらに刺激を得た画家たちによって独自の発展を遂げます。

そして近世。狩野派、琳派、円山四条派の画家たちは、趣向を凝らした水墨で個性を競い合い、土佐派や住吉派、復古大和絵派は、ときに淡彩を加えつつ、ストイックな白描で観る者を清浄な境地に誘います。

根津美術館  
NEZUMUSEUM



水墨



重要美術品  
せきへき すびょうぶ なかさわ ろせつ  
赤壁図屏風 長沢芦雪筆  
6曲1双 紙本墨画淡彩  
日本・江戸時代 18世紀

8曲屏風かと思わせる巨大な画面に、中国の詩人・蘇軾<sup>そしやく</sup>が長江の名勝で遊ぶ様子を描く。円山応挙の高弟ながら、型を破った個性派・長沢芦雪（1754～99）の奔放にして卓越した水墨技を堪能できる作品である。



じゅうろじんず わたなべ しこう  
寿老人図 渡辺始興筆  
1幅 紙本墨画  
日本・江戸時代 18世紀

渡辺始興（1683～1755）は、狩野派に学んだ後、尾形乾山<sup>けんざん</sup>のやきものの絵付けを行い、やがて乾山の兄・光琳の弟子になった。本作品の軽妙な筆墨による飄逸な寿老人にも、狩野派風と光琳風が融合する。



わたしたかざびょうぶ そ がそうあん  
鷲鷹図屏風 曾我宗庵筆 2曲1隻 紙本墨画  
日本・江戸時代 17～18世紀

メリハリの効いた水墨と劇画的とも言える表現が目を引き鷲と鷹。筆者の曾我宗庵は、桃山時代に鷹図を得意とした曾我直庵<sup>そが ちよくあん</sup>の系譜にあると考えられる。

白描



げんじものがたりがじょう すみよしぐけい  
源氏物語画帖 伝住吉具慶筆 1帖 紙本墨画淡彩  
日本・江戸時代 17世紀

『源氏物語』の名場面を描いた色紙をアルバムに仕立てた作品。細い墨線が小画面に緻密な絵画世界を作る。江戸時代のやまと絵の画家、住吉具慶（1631～1705）の筆と伝える。



のうりようす れいぜいためたか  
納涼図 冷泉為恭筆  
1幅 紙本墨画淡彩  
日本・江戸時代 19世紀

いずみどの  
泉殿で涼む3人は親子だろうか。もとは12ヶ月の行事や風景を描いた連作の6月にあたる。復古大和絵派の冷泉為恭(1823～64)は、均質な墨線を主とする白描に、流麗な動きやニュアンスを与えた。

同時開催

展示室5

土質や制作技法など様々なことを教えてくれる陶磁器の破片。陶磁器研究の醍醐味とも言える陶片の世界にご案内するシリーズ、その第一弾です。

陶片から学ぶ — 中国陶磁編 —



せいじとうへん せうしゆうよう  
青磁陶片 越州窯  
施釉陶器  
中国・唐～北宋時代 10～11世紀

中国浙江省杭州付近で採集された越州窯青磁の陶片。蓮華文や対蝶文など優美で細密な文様が彫りあらわされている。東洋陶磁研究所旧蔵品。

展示室6

秋に感じる物寂しさも、道具に取り入れることで、茶席では亭主と客の慰みとなります。草木が枯れゆく秋にふさわしい茶道具約20件の取り合わせ。

秋寂の茶



あきくさ まき えなつめ  
秋草蒔絵棗  
1合 木胎漆塗  
日本・桃山時代 16世紀

菊や藤袴などの秋草文様が金銀の平時絵であらわされた棗。長年の使用によって蒔絵が擦れた様子に、かえって趣が感じられる。

## <日時指定予約制導入のお知らせ>

根津美術館では本展覧会より、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一つとして、根津倶楽部会員、招待はがき等をお持ちの方を含めすべてのご来館者を対象とした「日時指定予約制」(当日予約不可)を導入いたします。

ご予約は9月上旬から、当館ホームページ上から行えます(クレジットカード決済のみ)。予約人数は上限4名とし、当面団体予約の受付は中止させていただきます。

このほか、ご来館の皆様安心して展覧会をご覧いただけるよう、様々な方策を講じてまいります。ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

## 開催概要

展覧会名	企画展「モノクロームの冒険 一日本近世の水墨と白描一」
主催	根津美術館
開催期間	2020年9月19日(土)～11月3日(火・祝)
開館時間	午前10時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
休館日	毎週月曜日【ただし9月21日(月・祝)は開館し、翌々日23日(水)休館】
入館料	一般 1100円(900円) 学生 800円(600円) ※( )内は障害者手帳等提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。
アクセス	地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道)駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、 B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分
住所	〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1
お問合せ	根津美術館 学芸部広報課 Tel. 03-3400-2536 (代表) website <a href="http://www.nezu-muse.or.jp">http://www.nezu-muse.or.jp</a>

## 次回展 財団創立 80 周年記念特別展「根津美術館の国宝・重要文化財」 2020年11月14日(土)～12月20日(日)

財団創立80周年、また初代根津嘉一郎没後80年の節目でもある記念の年に、根津美術館が誇る日本・東洋の名宝が一堂に会します。

※会期中に大幅な展示替えがあります。



国宝  
那智瀧図(部分)  
日本・鎌倉時代 13～14世紀  
根津美術館蔵



国宝  
燕子花図屏風(右隻・部分)  
尾形光琳筆  
日本・江戸時代 18世紀  
根津美術館蔵

\*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2020.7)